

「キリスト教伝来記念ミサ」説教

中野裕明司教 ミサ説教

2021年8月15日 鹿児島カテドラル・ザビエル教会

鹿児島教区は1978年、鹿児島市の祇園の洲公園に「ザビエル上陸記念碑」を建立し、鹿児島市に寄贈しました。以来、聖ザビエル一行が鹿児島に到着したとされる8月15日に「ザビエル上陸記念祭」としてお祝いしてきました。

一方、今日までの約40年間、8月15日が「終戦記念日」、「お盆」、「聖母被昇天祭」、「平和旬間最終日」という記念すべき事柄と重なっているため、「上陸記念祭」の日を15日から、外して実行したことも一時期ありました。私自身この事でずっと悩んできました。

そして、司教になって気づいたのです。聖ザビエルが日本の各地を初めて訪れた土地はみんな上陸記念地になるのだと。それで、ポイントをずらして、聖ザビエル一行がもたらした「キリスト教」に関心を集めようと思いました。それで、2年前から、「キリスト教伝来記念ミサ」と改名したわけです。

さらに考えました。確かに当時の日本にもたらされたのは、「キリスト教」でしたが、それと同時に、世俗的文化も伴いました。つまり、戦いに勝つための武器・弾薬などの交易でした。従って、聖ザビエル一行がもたらしたのは、もっと先鋭に、「キリストによる人間の救いの問題」に注視することが大切ではないかと考えました。

というのは、この日、全国的に終戦記念日を祈念するわけですが、200万人以上の犠牲者を出した大戦争の終結の日に、亡くなった方々へ、相応しい弔いのメッセージが届けられるとしたら、キリスト教としてどのようなメッセージを発することができるかということです。それで、私たち信者にとって聖母被昇天のお祝いのメッセージこそ最も相応しいものである、という思いに至ったのです。と、いうことで、キリスト教伝来記念ミサは8月15日に固定することにしました。

聖ザビエル自身もその手紙の中で、自分たちが鹿児島に入港したのは、「聖母の祝日」であったと2回も言及しています。この地に降り立った聖ザビエル一行は、聖母マリアへ感謝を込めてこの日のミサを捧げたに違いありません。

では、聖母被昇天の教義はどのようなものでしょうか？

それは、「聖母は死後、霊肉ともに天に挙げられた」というものです。この教義の内容は、イエスの母マリアが、「神の母」という称号を付与された441年のエフェゾ公会議後から人々に受け入れられ、広められたといわれています。8世紀ごろには西欧社会に広まりました。実際、12～13世紀ごろに建立されたイタリアのある教会堂では聖母被昇天を題材としたフレスコ画を見ることができます。

ところで、このように、いわゆる信者の「信仰の感覚」(Sensus Fidei)によって信じられていた事柄を、信ずべき教義として教会が公式に発表したのは1950年教皇ピオ12世の時でした。1950年と言え、第2次世界大戦終結から7年後、大東亜戦争終結から5年後のことです。

教皇ピオ12世が、その時期に1500年近く信者間で信仰されてきた「聖母被昇天の事柄」を、どうして、教会の信ずべき教義としてわざわざ宣言したのでしょうか？

それは、聖母が、霊肉ともに天に挙げられたことは、キリストの死と復活に直結しているからです。キリストの贖いのわざ、すなわち、十字架上での死とそれに続く復活によって、罪と死に勝利した、と宣言することがキリスト教の本質ですが、その救いのわざが、そのまま聖母マリアに適用されている、と宣言することこそ、この教義の真意です。

聖母が、原罪の汚れなくしてこの世に生を受けたこと、キリストの贖いのわざ(罪のゆるしのために流される血)である十字架も元にしたたずみ、そのわざに参加した、あるいは協力なされた、マリアは、処女であり、母である、ということで、聖母と称されるのです。

罪と死は連結しています。死は罪の結果であると聖パウロは言います。従って死にたくない人は、罪のゆるしを請うのです。そうすると、人類に死をもたらす戦争は、実は人間の犯す罪が起因であることが分かります。

人類に死をもたらす戦争を忌み嫌い、戦争犠牲者の冥福を祈る今日、それと同じ愚行を繰り返すことの無いように、先ず、自らの中に巣くう罪と戦う必要があります。そのために私たちと同じ人間でありながら、その清明な意思によって神のみ旨に受け入れそのように生き抜いた、聖母マリアを慕い、その徳に倣い、必要な助けを願い求めましょう。

ところで、日本のカトリック教会は、8月6日から15日までを「平和旬間」と定め、平和の構築のために祈り、活動することを奨励しています。これは、1981年広島で発せられた聖ヨハネ・パウロ2世教皇の平和メッセージに端を発しています。

「戦争は人間の仕業です。戦争は人間の命を奪います。戦争は死です。」という有名な冒頭の言葉を想起しながら、聖母マリアの取次を願い、平和の構築のために働くものとなれますように今日のミサで祈ってまいりましょう。